

### 資料 3

令和4年度 幼児教育における人材確保・キャリアアップ支援事業  
第1回評価検討委員会

#### 幼児教育コーディネータのための資質・能力に関する調査 (R4 事前)

「幼児教育の新たなキャリアである幼児教育コーディネータの養成カリキュラムの開発・試行」での基礎資料とすることを目的としてアンケートを企画・実施。受講生の受講前の資質・能力の実態を把握した。受講後に再度同じ設問にて調査を実施し、変容を捉える。

○実施時期：令和4年7・9月 ○実施対象：受講生34名（回答33名）

○実施方法：Web方式

#### A. 保育（保育構想・保育実践・評価改善）

- A1 自園の課題、幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた指導計画を作成し、他の教員に広めていくことができる。
- A2 幼稚園教育要領の趣旨を踏まえ自園の課題の解決に努め、日常的な保育の改善に向けて研究体制を整えることができる。
- A3 各領域等を総合的・一体的に扱う保育のモデルを示すなど、保育実践のリーダーとして指導方法を積極的に他の教員に広めていくことができる。
- A4 自園の課題を踏まえ人格形成の基礎を培う実践について、他の教員に伝えたり、適切に助言を行ったりすることができる。
- A5 自園の保育力向上に向けた取組の課題を明らかにし、指導計画等の改善を行うことができる。
- A6 他の教員に対して、保育実践の評価を生かした指導改善について、適切に助言を行うことができる。

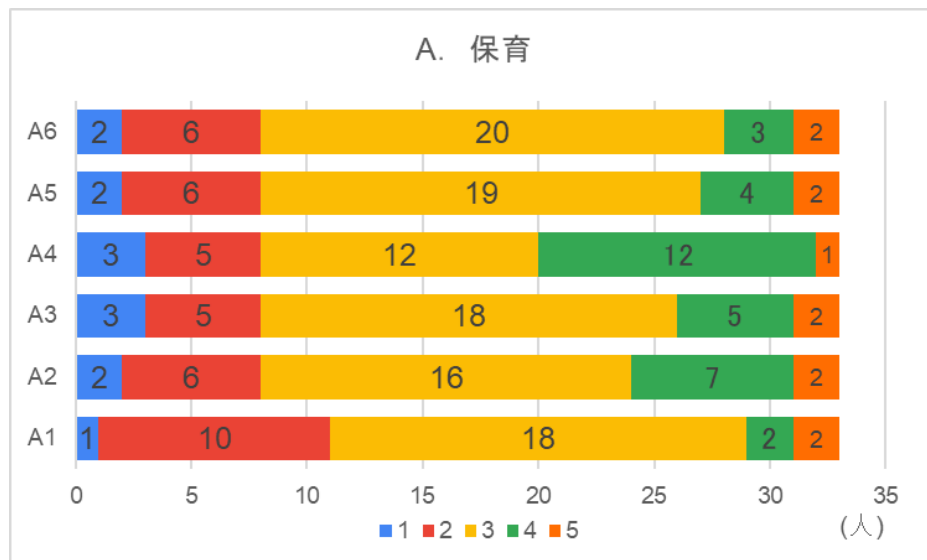


図1. 保育に関する資質・能力

## B. 教育環境の創造（幼児理解・生活の展開・発達の課題）

- B1 様々な情報に基づいて幼児一人一人を多面的・多角的に捉え、個性を生かす指導を行うことができる。
- B2 継続的に幼児の言動を見届け、価値付ける指導を行ったり、幼児の捉え方について助言を行ったりすることができる。
- B3 関係職員や保護者等と協力して、幼児の状況を共有し、組織を生かして指導方法を判断し迅速に対応することができる。
- B4 幼児に対する指導を組織的・計画的に実践できるように、体制を整えるとともに問題の未然防止の取組を実践することができる。
- B5 幼児の多様な発達の課題を明確にし、それに対応する方策を提案し、園の実践の基点となって実践することができる。
- B6 幼児の多様な発達の課題に対する方策を明確にもち、モデルとなる実践を行うとともに、指導内容の改善に向けて助言を行うことができる。

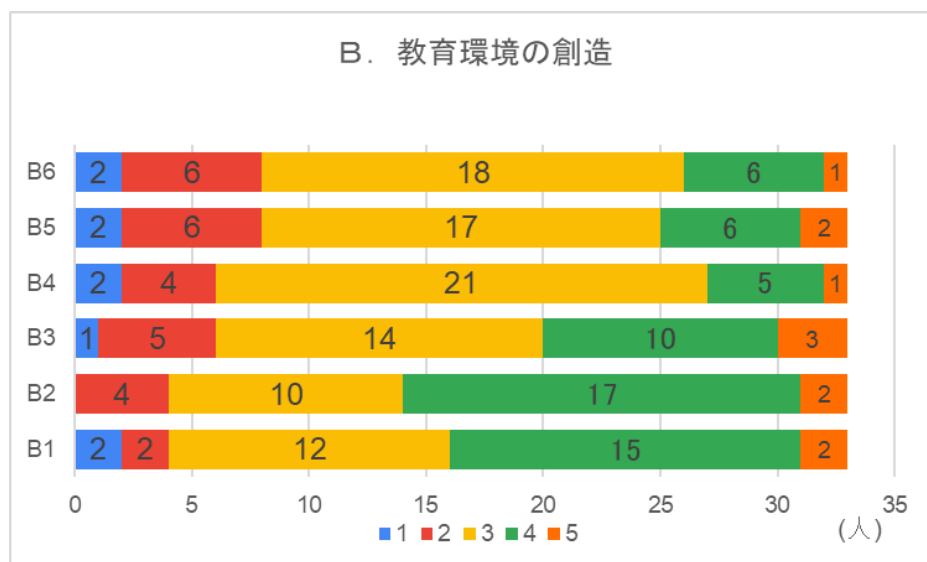


図2. 教育環境尾創造に関する資質・能力

## C. 経営分掌（学級・学年・園経営・連携・協働・危機管理）

- C1 自園の分掌全般に関して理解を深め、組織を生かしながら各分掌を推進することができる。
- C2 自園の教育目標具現に向けて、園の組織間の連絡・調整を行うとともに若手教員の育成をすることができる。
- C3 他の教員等の取組状況を把握し、連絡・調整をしながら対応することができる。
- C4 広い視野をもち、関係機関や保護者・地域等と連携し、組織を生かした対応をすることができる。

- C5 関係機関や保護者・地域等と連携し、事故等の未然防止や発生時における迅速な対応を行うことができる。
- C6 自園を取り巻く環境について、家庭・地域・関係機関との協力体制を整えとともに、適切に対応することができる。

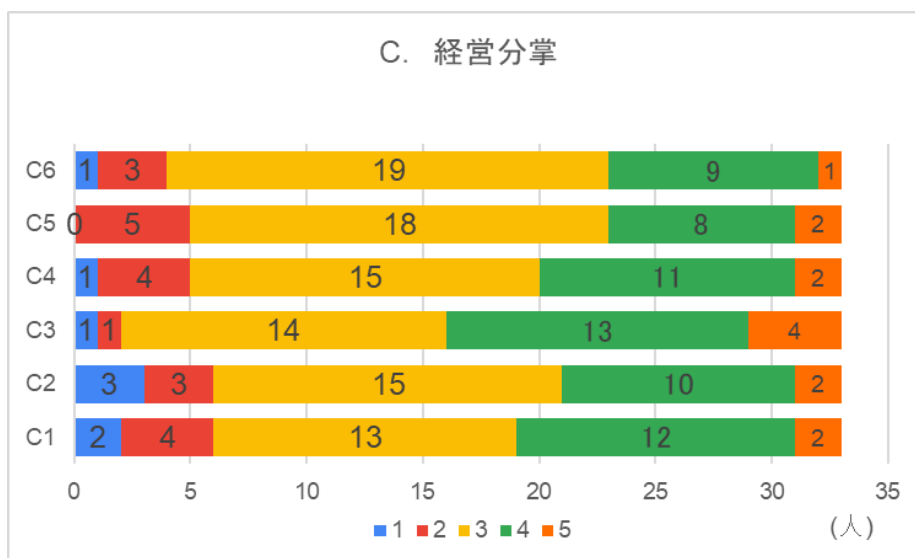


図3. 経営分掌に関する資質・能力

D. 別な配慮や支援を必要とする幼児への対応

- D1 全校的な支援の充実に向け、職員の連携による指導の体制を整え、組織的・持続的な支援のために主体的に働きかけることができる。
- D2 幼児児童生徒への一貫した教育支援を目指し、保護者や地域、関係機関と連携した支援体制の構築を推進することができる。

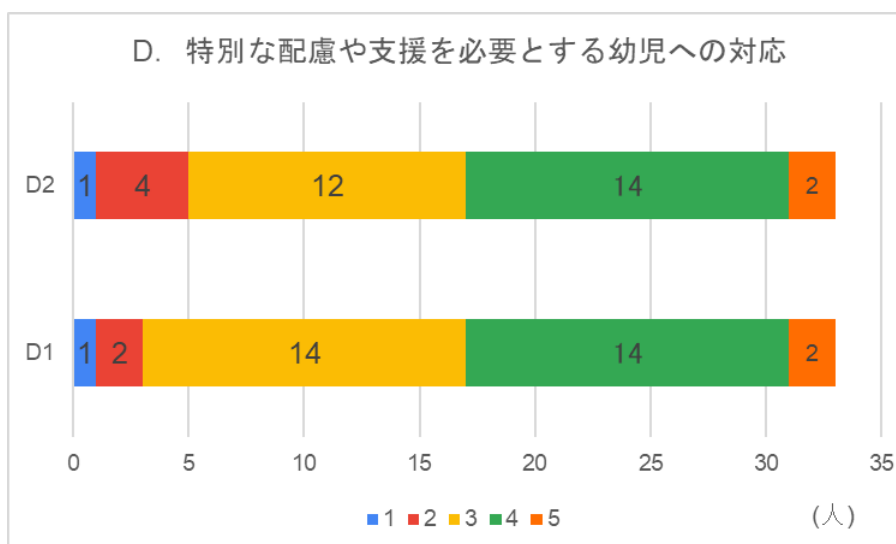


図4. 教育環境の創造に関する資質・能力

## E. ICT や情報・教育データの利活用

- E1 自からの ICT 活用指導力を高め、これまでの経験を踏まえた活用方法を提案したり、実践したりすることができる。
- E2 自園の ICT や情報・教育データの活用を俯瞰的に捉え、組織的な課題を明確にし、解決に向けて働きかけることができる。

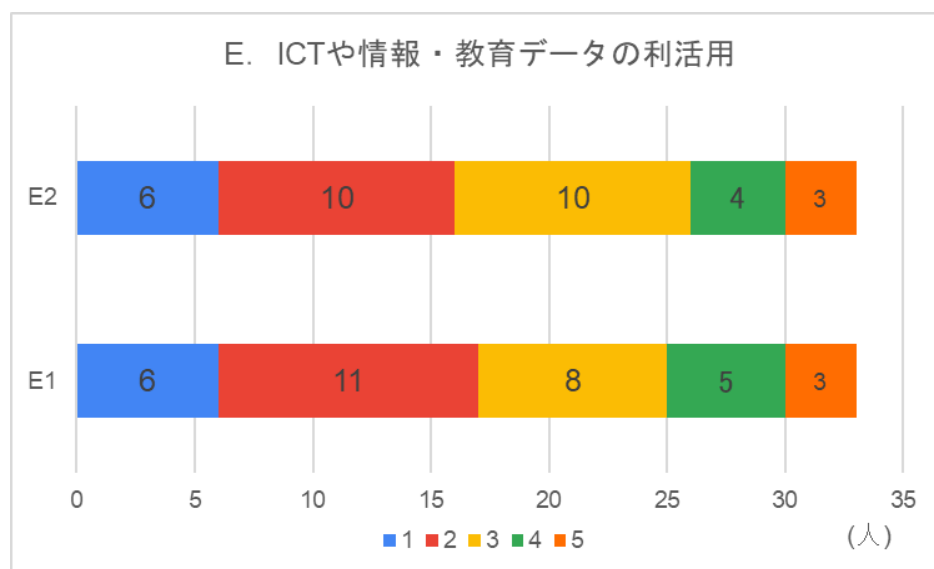


図 5. ICT・情報・教育データに関する資質・能力

## F. インストラクショナルデザイン指導力（インストラクショナルデザイン・研修成果の評価・ワークショップ・教育リソース）

- F1 自分の学びをデザインすることの必要性について説明できる。
- F2 インストラクショナルデザインの第1原理の観点から、現実に役立つ自分の学びを設計できる。
- F3 e-Learning により学修がどのように支援されているかについて、研修以外の学習支援方法を含んで、事例を挙げながら説明できる。
- F4 研修成果の評価をどのように行うか。研修が目指した学習目標に即して計画を具現化でき、研修の評価・改善を計画することができる。
- F5 研修の学習目標に沿ったワークショップのデザインをすることができる。
- F6 全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと共同的な学びの実現のための教育資料のデジタルアーカイブの活用について事例を挙げて説明できる。

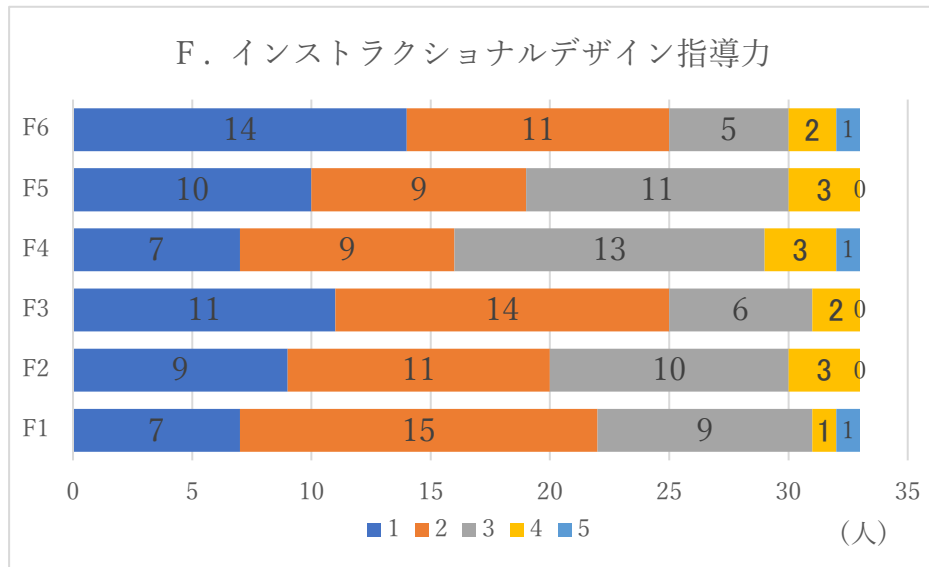


図 6. インストラクショナルデザイン指導力に関する資質・能力